

C3・C4 審判長 副審判長（女子）

団体競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・D3・E1・E3）

個人競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・D3・E1・E3）

氏名（ 安福康夫 ）

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 審判研修会の実施

ア 採点競技の特性について

- ・ルールに則って順位付けをすること
- ・採点結果は新体操の方向性を指し示すものであること

イ 審判のあり方について

- ・審判員としてのモラルを遵守すること。
- ・監督・選手との接触は挨拶程度とすること。

ウ 29年度各種大会の採点結果とその分析

- ・各種大会の得点と演技の傾向を確認

エ 個人競技の採点について

(ア) 構成

- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・実施上のミスが構成得点に影響しすぎることが多いため、その影響する部分を確認し、減点しすぎないように注意をすること。
- ・運動と手具操作の組み合わせについて、その価値を見極めること。
- ・転回系のバリエーションの偏りに気をつけること。

(イ) 実施

- ・動きの質と手具操作の同調性を見極めること。
- ・目に見えた減点はしっかりと引くが、減点ありきの採点はしないこと。

オ 団体競技の採点について

(ア) 構成

- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・2018年ルール改定に伴い徒手系要素と転回系要素の同時性についてしっかりと確認し採点すること。
- ・近年求められている移動の幅や運動を伴う隊形変化など、高度な運動に着目して採点すること。

(イ) 実施

- ・運動の質を重視し採点すること。

(2) ビデオによる採点研修の実施

2. 採点上起こった事項とその処理

- (1) 団体競技で伴奏音楽に意味のある歌詞が使用されているチームがあり、構成審判員全員で協議をし、0.20の減点をした。声入りの音楽については、歌詞が明確に聞き取れるものと曖昧なものとの混在しており採点に苦しむところではあるが、今回のように意図して意味のある歌詞を使用することについて、教育の一環として行われている本大会の意義に大きく反するところであり問題を感じる。

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会の審判をするにあたり、審判員一同心を込めて採点をさせていただきました。

団体では近年求められている運動の幅のある動きや高度な隊形移動などに果敢に挑戦し、よりハイレベルな構成をしているチームが多く見られました。ただ内容が難しくなったためか大きなミスがでたり、その難しい構成に実施力が追いつかず、結果的に得点が伸びなかったチームも目につきました。一方で構成上の難しさはそれほどではないが、徒手はもちろんのこと宙返りの空中姿勢で足先まで美しく伸ばしているなど動きの美しさにこだわった男子新体操の醍醐味を感じさせるチームもありました。

個人ではジュニア時代から活躍している選手も多くレベルの高い大会となりました。上位の選手は転回系・投げ受けともに多様性十分な演技をし、多くの加点を獲得していましたが、新体操の求める「美しく深みのある運動」をスピード感とダイナミズムをもって表現するという点ではまだ伸びしろを感じました。全身が極限の運動幅を持って自然に美しく連動して動くことが男子新体操のベースとなる徒手だと思えます。

最後になりましたが開会式や表彰式を含め大会運営の素晴らしい大会でした。陰から支えていただいた役員の皆様、実行委員会や補助役員の方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

C3・C4 審判長 副審判長 (女子)
団体競技 (男子: 構成主任・実施主任, 女子: D1・D3・E1・E3)
個人競技 (男子: 構成主任・実施主任, 女子: D1・D3・E1・E3)

氏名 (菊 地 伸 宏)

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 団体競技

- ・今年度のルール変更で重視されるようになった団体同時性をよく見極め、徒手面、転回系での同時性を表現しているチームを評価する。
- ・組運動の長いものに関しては、各選手の運動量の過多を見極め、評価に反映させる。
- ・転回系要素に偏ることなく、隊形移動の大きさや、移動の動きの種類など、徒手系要素の部分がしっかりと組み入れられているチームを評価する。
- ・表現的な動きに偏ることなく、男子新体操特有の徒手体操が構成上、適切な割合で組み入れられているかを見極める。
- ・同時スタートや2段スタートなど、団体の転回系構成要素の減点に当たるかどうか、助走に入る段階から確認し、見落としのないようにすること。

(2) 個人競技

- ・転回系の内容をよく見極め、同難度であっても構成上難しいものに高い評価を与える。また、転回系における多様性の部分も評価に差をつける。
- ・徒手系難度における回転不足に関して、正確に判断し、難度認定をする。転回中の手具操作に関しても、転回中にしっかり2回の操作が入っているかを判定し、難度認定に反映させる。
- ・投げ上げの高さについて2mを超えているかどうかを確認する。
- ・転回系に偏ることなく体の動きと手具操作が一致した構成になっているか。ただ難度を入れるだけでなく、手具操作と体の動きが一致した自然な流れの構成になっているかを評価する。
- ・手具の操作、投げ受けの技術に関して、技術的に難しいもの、多様性があるかどうかを判断し、評価に反映させる。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・伴奏音楽に明確に意味のある歌詞が使われているチームがあり、主任審判から0.2の減点を行った。

3. その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体・個人共通

- ・2015年版採点規則も4年目を迎え、どの選手・チームもルールをしっかりと理解した構成内容になっており、なおかつ内容も充実した高いレベルのものになっている。審判講習会などで周知されている男子新体操の方向性に対して、十分理解され、それを反映した構成内容になっていると感じた。

(2) 団体競技

- ・全体を通して、レベルアップが図られており、特に上位チームにおいてはどのチームの作品も甲乙つけがたい内容であった。近年高くなりがちだった転回系の割合に関しても、各チーム工夫して、動きの中で組運動を取り入れるなど、長さや内容に関して、ルール上高い評価を受けられるように工夫していた。
- ・今年度のルール変更で団体同時性を感じられる構成に、高い評価をすることになったが、その部分に関しては徒手系の部分と転回系の部分がある。両方がバランス良く組み入れられているチームもあったが、どちらかの面では好印象を受けるチームがあり、点数にどのように反映させるか難しいところだった。
- ・構成全体を通して、すっきりと見せているチームと複雑な内容を次々で行うチームなど各チームのカラーが出ていたが、運動量や同時性、多様性など構成全体を通じた内容、または演技全体を通じたまとまりの部分で最終的な評価が出たと考えている。

(3) 個人競技

- ・上位選手は追加の難度をほぼ全て入れてくるようになっている。構成上、演技の流れの中で上手く難度を入れてくる選手が増え、以前よりも、流れの悪い構成が減った印象を受けた。
- ・ジュニアから引き続いて競技を行う者が増え、高校生全体で競技レベルの底上げが図られていると感じた。
- ・実施上の失敗に伴う構成上の減点もあるが、あまり実施に影響されず、構成の内容として評価を出すことを意識したが、反省点も多かった。また、同じ選手の他種目の構成点に影響を受けないように採点を行うことが求められるが、その部分の難しさも感じた。

(4) その他

- ・毎年、素晴らしい作品を作り上げる監督・選手の皆様方には感服いたします。審判団としても、様々な場面で研鑽を積み、正確なジャッジが出来るよう努力して参ります。
- ・最後に開催県である静岡県の役員・補助員の皆様には暑い中、様々な面でお世話になりありがとうございました。心より感謝申し上げます。

平成30年度全国高校総体 「審判員報告」

C3・C4 審判長

団体競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・E1）

個人競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・E1）

氏名（岡田幸樹）

1 審判事前打ち合わせた事項

- (1) 順位付けを正確に判断し、決断すること。
- (2) 「動きの量や質」しっかりと見極め判断すること。
- (3) 選手・監督が目指していくべき方向性を示すこと。
- (4) 審判員が全ての演技に対して自信を持って審判し、その責任において説明が出来るようにすること。
- (5) 団体競技・個人競技ともに我々、審判員や指導者、競技者そして観客の皆さん、大会を支えていただいている多くの方々に恥じる事のない審判を行うことを確認しました。
- (6) 審判技術の向上を図り、全体的な動きを見抜く力と認める力を養い、感性を磨き審判すること。
- (7) 禁止技及び高体連ルールの確認。

2 採点上起こった事項とその処理

- (1) 個人競技において：
 - ア 全体的に構成上の難度(技・転回運動)を多く取り入れる傾向が目立ち、徒手体操の量や質が粗雑になっている。
 - イ 全体的に手具などの落下ミスが多く採点に苦慮した。
 - ウ 「手具」と「動き」の連動性や調和がとれていない選手が多かった。
 - オ 難度を無理やり取ろうとして演技全体に深さ・大きさ・スピードそして柔軟性に欠ける選手が多かった。
- (3) 団体競技において：
 - ア どの学校も大変苦勞されて作品を創り上げて大会に臨んできていただき、審判団としても緊張感を持って審判を行った。
 - イ 全体的に我々男子新体操競技が目指していくべき方向性で作品が作られていた。(団体同時性)
 - ウ 徒手運動の大切さ(可動域・移動幅等)とその運動の創り上げ方によって大きく差が開いた。
 - オ 残念なことにあるチームは、ルールを完全に無視した状態で競技を行い高校生の大会として教育的な観点から不信感を持たざるを得なかった。

3 その他特記事項・意見・感想

今大会を振り返り、各審判員が緊張感と自信を持ってジャッジにあたってくださいました。個人競技においては、もう少し技や転回運動にとらわれないでしっかりと上肢、下肢の連動性のある徒手運動に着目して欲しいと感じた。

団体競技において、全体的にミスが多かった大会でもあったが、上位校は特に熟練・洗練されて

いて素晴らしい演技が印象的だった。監督さんや選手の創意工夫された演技に対し、必ずしも結果と結びつかなかったチームに関しても転回系と徒手系のバランス的な面や運動量及び質の高さを感じた大会でもあった。

今後、審判団としても新体操の方向性や指針をしっかりと示し、ダイナミックさの中に美しい体操や極限から極限の動きを追求し、可動域の大きさの重要性や柔軟性の大切さをもっと見極め評価していくべきだとも感じた。

今大会において、大きな怪我もなく成功裡に終わったことは、大会関係役員の方々や地元の皆様の懸命なご尽力と微細にわたる目配りや気配りがあったおかげで思い出に残る素晴らしい大会にできたのだと大変感謝しております。さらに審判技術の向上を目指していきたいと思えます。

皆様、本当にありがとうございました。